



富士見台にて



つづら岩からの眺め



弘沢の滝

村内で紅葉が始まった10月下旬、地域おこし協力隊メンバー4名で秋の登山道と滝の視察に行ってみました。歩いたのは、弘沢の滝からスタートして千足から登り、養沢(あきる野市)へ下るルートです。  
このコースは、環境省が計画し国や都道府県が整備をしている長距離自然歩道の一つ、関東ふれあいの道の「鍾乳洞と滝の道」です。  
「鍾乳洞と滝の道」には、名前がついているだけで6つの滝(弘沢の滝、茅倉の滝、小天狗滝、天狗滝、綾滝、大滝)があります。この日は快晴でした。葉や苔を観察したり、滝の絵を描いたり、会う人と挨拶を交わしたりと楽しみながら歩くことができました。つづら岩からの眺めは最高です!富士山や都心の街並みの他、始まった紅葉が綺麗に見られました。  
秋は日が短くなります。相談して今回は大岳山へ足を延ばすのは断念し、早めに下山することにしました。実施前の計画はとても大切です。その上で、当日の天気や時間、同行者の体調などを観察し、内容を変更できるように時間のゆとりと、心のゆとりを持つことが大切であると感じました。

## 村内滝巡り

### 「弘沢の滝」大滝

## 秋の山々を訪ねて「滝巡り・笠取山(山梨県)」



←笠取山を背景に記念撮影



出発前に、今日の歩くルートを確認

### 協力隊交流(檜原村・丹波山村)「秋と冬を体感する笠取山」

地域おこし協力隊の交流で、山梨県丹波山村の地域おこし協力隊4名と笠取山に行ってきました。笠取山は、多摩川の源流地点として知られています。  
訪れたのは11月中旬、集合場所となった丹波山村役場(標高620m)付近では、紅葉が見頃を迎えていました。案内をしてくれたのは丹波山村地域おこし協力隊で山岳ガイドとして活動する方。登山口がある駐車場まで移動すると、空気も少しひんやりとしています。標高1500m付近まで来ると、既に紅葉は終わりを迎えており、山道は落ち葉に覆われていました。とても柔らかく、落ち葉を踏む足音がとても心地よく感じられました。

笠取山は1953m、山頂は遮るものもなく、冷たい風が私たちを待ち構えていました。この日も天気に恵まれ、南アルプスや秩父の山々を望むことができました。笠取山から西に30分程歩いた場所に、分水嶺がありました。ここは降った雨が多摩川・荒川・富士川の三方向に分かれていく、分水地点です。地形を通して、学びが深まりました。  
丹波山村は、山々に囲まれ檜原村に近い環境にあります。今回の交流を通じて、互いの活動や考え方を共有することができました。(齊藤)

### 役場職員のインタビュー記事を書きました！ 役場ホームページでご覧ください◎

檜原村のホームページ上で、若手職員のインタビュー記事を6本公開しました！  
檜原村役場は、職員数が少ないにも関わらず、村内・村外出身、新卒・中途入社、高校卒・大学卒・大学院卒と、多様な経歴を持つ職員が働いています。一方で、今までは一切、そうした職員の経歴や仕事内容、仕事に対する思いを伝えるような内容の記事がありませんでした。

そこで今回、檜原村役場の職員募集に合わせ、まずは若手職員にインタビューを行い、記事を制作しました。  
記事の制作に至ったのは、インタビュー記事を公開することで、檜原村役場の職員に応募する人が少しでも増えればという思いと、村の皆さんにも、ユニークで親切的な役場職員の皆さんの人となりをぜひ知っていただきたいという思いがあったからです。

10代で入庁した方、前職で研究者として木材由来のプラスチックの研究をしていた方、通信制大学に通いながら現在役場で働いてい



### 竹を使ってイベント開催しました！ ～竹箸、竹ひご、竹筒ご飯～



竹筒ご飯の容器作り

協力隊メンバーや竹に興味のあるという仲間をお誘いして、イベントを開催しました。  
今回は2日間の日程で開催しました。近くの竹林から竹を切り出し、運ぶところからのスタート。細く割った竹をナイフで削り、箸を作ったり、竹筒ご飯を作ったり、竹ひごを使って編む体験をしたりしました。皆で作



竹の加工について説明中

った竹筒ご飯は、美味しく炊き上がり皆から笑顔と歓声があがりました。今回の実施にあたり、日常と非日常を繋ぐような内容を考えました。  
イベントの開催を通して、今後に繋がる手応えと改善点が得られました。今後、竹をはじめとする自然の素材を活用したワークショップ等を企画していきたいと考え



編み体験で参加者が作った作品

ています。また、現在このような活動に使用する竹をご提供いただける竹林をお持ちの方も探しております。(齊藤)

空き家の相談受付中！  
空き家ありませんか？

檜原村役場むらづくり推進係まで！  
☎042-519-9556



## 人里地区で行われた歴史舞台と もみじ祭りのお手伝いをしてきました



### 戦国時代の女性の生きざまを 伝える歴史舞台

10月29日、人里地区にある天空の舞台と玉傳寺で、武田信玄の娘たちを題材にした歴史舞台が上演されました。協力隊でも、会場の設営や撤収、演者の方々のお手伝いをさせていただきました。

主催は、歴史上の女性の生きざまを通じて生きる力や命の大切さを伝える活動を行う「やまとなでしこプロジェクト」。日本各地で歴史舞台を企画し、地元の若者たちも演者として巻き込みながら、舞台をつくっています。今回の舞台でも、檜原村から3名が演者として参加し、主役の松姫は、村出身で、やまとなでしこプロジェクトのメンバーでもある高木茜さんが演じました。



当日は約90名の方が観覧に訪れ、中には檜原村を初めて訪れたという人も。一般社団法人もみじの里の皆さんが手づくりした天空の舞台は背

後に山々の景観が広がる絶好のロケーションで、今後もこうした演劇や音楽イベントの開催が村内で広がってほしいなと思いました！

### 紅葉を眺めながら 音楽と屋台を楽しむお祭り

11月11日には、人里もみじ祭りが檜原村の後援のもと行われ、協力隊も交通整理や屋台での調理などのお手伝いに行ってきました。



当日は完成から4年越しとなる天空の舞台の落成式や、千代田区の正則学園高校のビッグバンド部、旧南秋川小学校元教員の若松さんらによる演奏が行われたほか、焼き鳥、焼きそば、おでんなどの屋台も並びました。こうした地元の方々が主催するイベントを次世代につないでいけるよう、今後もこうした機会があれば協力隊としてお手伝いしながら、一緒に盛り上げ、楽しんでいきたいと思っています！（高野）

## 門松作り始まっています！

二年前、村内で材料をいただき、教えてもらいながら作成して今年度で3回目。初めて作成した年に教えていただいた言葉に「準備が8割」というものがあります。飾り付けは2割で、そこに至るまでの準備が大切であるという意味が込められています。

今年も11月下旬から、藁の外皮取りの作業が始まっています。この作業が一番時間を要するのです。今年一年を振り返りながら、良い年を迎えられるように願いながら、作成しています。



藁の外皮取り作業

地域おこし協力隊へのご依頼は  
檜原村役場 おらづくり推進係へ  
☎042-519-9556

協力隊 Facebook は  
QRコードから！➡



今年も残すところ一ヶ月。今年は多くのお祭りが再開されました。私自身は、3年目にして初めての体験が大切な思い出になりました。（齊藤）

比較的温暖かい日が多かった今年の秋。それでも木の葉は落ち始めると寒さが身に染みてきます。

### 編集後記



### 地域おこし協力隊メンバー

なかざわ 中澤	だいき 大樹	たかの 高野	ゆうみ 優海
さいとう 齊藤	はやと 隼人	ともさわ 友澤	ゆうき 勇紀

村内で見かけたら、お声かけください！

## 2周年感謝祭！



檜原 森のおもちゃ美術館  
HINOHARA TOY MUSEUM TOKYO



### -感謝祭 SnapBoard-



### 大人も子供も！うらやま de そとあそび！！



### ひのじゃが君、特製ゲームに真剣。 参加で駄菓子！成功でじゃがストラップ贈呈！！



館内の様子は  
Instagramも  
チェック！➡



### みんなで工作！ 赤ちゃん… じゃが君に夢中。

11月3日の開館記念日に合わせ、2周年記念の感謝祭が催された「檜原 森のおもちゃ美術館」。今年は新たにパワーアップしたイベントの数々でお客さんを迎えました！

館内では、檜原村と同じ年にオープンした焼津おもちゃ美術館と、スタッフを派遣し合い行った、zoom中継の合同ワークショップや、館内ボランティア学芸員さんの持ち込み企画のワークショップ、ひのじゃがストラップが貰える館内クイズラリーなど、3年目のスタートに相応しい新たな趣向が加わったイベントが行われました。また野外では、檜原の自然で遊べる人気イベント「そとあそび」や、地元有志の無料体験型屋台、地元グルメやメダカすくいの屋台、ハンドメイド雑貨のマルシェ、キッチンカーが感謝祭に花を添えました。

私もスタッフとして働かせていただき、ワークショップや「そとあそび」を担当しました。感謝祭の名のとおり、感謝のおもてなしが盛沢山で、私もお客さんと一緒に楽しませていただきました！（友澤）

## 多摩東京移管130周年記念イベント 超たまらん博(立川駅北口サンサンロード)

10月28(土)、29(日)の二日間、立川駅北口サンサンロードを会場に多摩東京移管130周年記念イベント「超たまらん博」が開催されました。多摩地区の30市町村が参加し、特産品の販売や地域のPRを行いました。

村や観光協会の職員と共に、中澤隊員と齊藤隊員が参加してきました。当日は、ひのじゃがくんも一緒に檜原村の特産品をPR。ひのじゃがくんのファンも集まり、ふれあえる、温かいイベントになりました。

檜原村ブースにも多くの人が訪れました。中には、現在は都市部に暮らす檜原村出身の方や、最近檜原村に遊びに行ったという方もおり、話が盛り上がりました。



ひのじゃがくんも積極的に檜原村をPR♪



檜原村の販売ブース

また、先日拾ったどんぐりや松ぼっくりを小さなかごに入れて「自由にお持ちください」と置いておくと、子どもが興味をもち嬉しそうに持ち帰る姿も見られました。今回のイベントは、檜原村と村外の地域とを繋ぐ機会でもあります。これまで何度か参加させていただいている地域振興イベントですが、とても大きな規模のイベントでした。

販売やPRをしながら、通る人がどのようなものに関心を持っているか、どのような配置が目にとまりやすいか、観察していたことは内緒ですよ笑。（齊藤）